

育てよう

鏡野のよい子シリーズ



教師はオーケストラの

コンダクター

みなさんは「共鳴」ということをご存知でしょうか。ある音に対して、同じ振動数を持つものが、振動をはじめめる現象です。

四月、学級を持つと、はじめに担任の先生に共鳴する子が出てきます。先生と同じ振動数を持つ子どもたちです。先生と違う振動数の子どもは、共鳴しません。そこで、担任は、共鳴させようとがんばるわけです。

学級の子どもたちを音にたとえると、色々な音色や高さを持つています。ドの子ばかりのクラスにしてはつまらないです。ミの子やソの子もいます。そうすれば、ドミソの和音が作れます。きれいな和音が作れるクラスがいいと思います。

しかし、美しい和音をつくるために「あなたはドにならなさい。」とか、「あなたはミ。」などと先生の都合で押し付けをすると和音は作りやすいけれど、不協和音を構成する子もいます。ドとシでは気

持ちの良い和音にはなりません。ところが、これにミとソがくつくとドミソの和音になります。ドミソドより気持ちのいいCメジャーという和音になるのです。強制しなくても、組み合わせることによって、美しい和音が作れるのです。

こども一人一人を楽器にたとえると、学級は、オーケストラのようです。「トランペットをフルートに変えようなどとしなさい。」ということですが、トランペットはフルートとして、フルートはフルートとして美しい音色になるように育てていくことが大切ではないでしょうか。たくさんさんの楽器が、いやな音で、てんてんばらばらに鳴っていたのでは、雑音でしかありません。楽譜に沿ってそれぞれが役割を果たすから素晴らしい合奏がでかあがるのです。それぞれの楽器を美しい音色にすること、そして、二つの楽器に秩序と使命を与えること、これが、教師の腕前の見せどころだと思っています。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

南小学校 小寺 一次

のびのびひろば

(上齋原幼稚園)



スキーのじゅんびをしました

上齋原といえば、雪が多く降るところで知られています。冬になると園庭もすっかり様変わりして、一面銀世界になります。そんな条件を生かして、幼稚園では、スキー遊びを取り入れています。倉庫にしまっているスキーをみんなで運んだり、サイズを合わせたり、室内で履き方の練習をしたりしてからスキー遊びを楽しみます。最初はなかなか上手いかないこともあります。覚えの早い子ども達は、シーズンが終わる頃には、すっかり慣れた様子を見せてくれます。



難しいけど、よく見ながら履くんだよね…。

何回も幼稚園まで運びました!

